

# ピアッツァ・アルテ・ロマンチズム

—— バロックから古典派へ ——

佐藤 均子 (曲種古典マリエト曲子のイームで) / 飛典古るはロッセ  
 桐野学園大学 及び、同大が研究科 (木大長谷が舞舞舞) / 桐野学園大学  
 スピード (2011の188) / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学  
 イト (2011の188) / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学  
 に出典 (桐野学園大学) / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学  
 を関係 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学  
 大オーケストラ / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学

ピエール・W. C.  
 桐野学園大学

東京エーデン / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学  
 留学 (2011の188) / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学  
 これまで / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学  
 今年 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学  
 など / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学 / 桐野学園大学

7月8日(土) PM7:00~

7月9日(日) PM3:00~

ピアッツァ・アルテ・ホール



主催 ピアッツァ・アルテ音楽教室

プログラム

第1部 バロックから古典派へ（フルートの名曲とイタリア古典歌曲）

- ☆Vergin, tutto amor（愛に満ちた処女よ） F. ドウランテ  
(1684~1755)
- ☆lascia ch'io pianga（私を泣かせてください） G. F. ヘンデル  
(1685~1759)
- ☆フルート・ソナタ BWV1020~第1楽章 J. S. バッハ  
(1685~1750)
- ☆歌劇『オルフェウス』～精霊の踊り C. W. グルック  
(1714~1787)
- ☆O notte, o Dea del mistero（ああ夜よ、神秘の女神よ） N. ピッチーニ  
(1728~1800)
- ☆Nel cor piu non mi sento（もはや私の心には感じない） G. バイジエッロ  
(1740~1816)
- ☆Piacer d'amor（愛の喜びは） G. マルティーニ  
(1741~1816)
- ☆Caro mio ben（いとしい女よ） G. ジョルダニー  
(1753~1798)
- ☆フルート協奏曲第2番～第1楽章 W. A. モーツァルト  
(1756~1791)

出演 佐藤玲子（ソプラノ）加久間朋子（チェンバロ，ピアノ）  
茅野まり子（フルート）堀部一寿（バリトン）

第2部 オペラ全曲

- ☆歌劇『奥様女中』 G. B. ペルゴレージ  
(1710~1736)

配役 堀部一寿（ウベルト）佐藤玲子（セルビーナ）ヤマネキンジ（ヴェスボーネ）

伴奏 田中潤一（リコーダー，フルート・トラヴェルソ）

川原任真（ヴィオラ・ダ・ガンバ）加久間朋子（チェンバロ）

衣裳協力 ロックショップ”デッドゾーン”（土浦モール505・2F）

## プロフィール

### 佐藤 玲子

桐朋学園大学音楽科、及び、同大学研究科修了。オペラ「コシ・ファン・トゥッテ」（デスピーナ役）の出演に始まり、東京、茨城での数々のヴォーカルコンサートやオペラハイライトに出演。つくばオペラフィオーレ第1回公演では、「フィガロの結婚」（スザンナ役）に出演。新宿モーツアルトサロンに於て「優しく愛を歌う」というテーマのソロコンサートを開催。美しい容姿に似合わず、三枚目ぶりを発揮しての女中役を得意とする。現在、二期会オペラ・スタジオ研究生。

### 堀部 一寿

東京コンセルヴァトアール尚美教育科、及び、研究科卒業。イタリア・ミラノに約1年間留学。ミラノのドイツ人学校にて、オペラ「ディドとイーニアス」のイーニアス役で出演。これまで、ソロ、コーラスを含め30本以上のオペラに出演。現在、女声合唱団エバーグリーン常任指揮者。東京生まれの東京育ちながら、地方に活動の場を求め、今年、1月より、当地にピアッツァ・アルテ音楽教室を開校。最近は、スタジオを経営する関係から、ロックなどにも興味を持ち、バンドを組むほか、尺八や吹奏楽の指導など、マルチミュージシャンを目指す。

### 茅野 まり子

1967年生まれ。県立牛久高校、及び、尚美学園短期大学音楽学部フルート専攻を卒業。フルートを増永弘昭氏に師事。1988年7月、茨城県新人演奏会に出演。現在、ピアッツァ・アルテ音楽教室フルート科講師。まだまだ、未熟な点が多いのですが、少しでも多くの皆様に、音楽の楽しさを伝えたいと思います。

### 加久間 朋子

東京は国立で生まれ育つ。1月生まれ。洗足学園大学音楽学部卒。最初、音楽教師をめざしたが、伴奏などを手掛けるうちチェンバロにひかれ、鍋島元子氏の門を叩き、古楽研究会”オリゴ”でチェンバロ、及び、通奏低音の修行を重ねる。。現在、ソロ及びアンサンブルの分野で活躍中。気難しいチェンバロも彼女の手にかかると素直な楽器に変身してしまう。古楽研究会、及び古典楽器センター講師。『音楽三昧』メンバー。

## 田中 潤一

東京は新橋で、江戸囃子を子守唄に育つ。1956年10月生。高校時代よりフルートにのめり込み、桐朋学園大学古楽器科第1期生として、トラヴェルソを有田正広氏に、フルートを野口龍氏に師事。リコーダーを独学。現在、つくば市に住み茗溪学園で教える。1984年より『音楽三昧』の仕掛人としてコンサート活動を展開。「クラシックのコンサートも楽しくなければ」が口癖。ジャズ・ハーモニカのトゥーツ・シールマンズ、津軽三味線の高橋竹山、リコーダーのフランス・ブリュッヘンが3大アイドル。

## 川原 仟真

札幌、名古屋に育つ。8月生まれ。東京芸術大学音楽学部ヴァイオリン科、および大学院修了。海野義雄、田中千香士両氏に師事。読売新人演奏会、芸大室内楽定期演奏会に出演。在学中より室内楽にのめり込み、芸大バッハ・カンタータ・クラブに属する傍ら、様々な形のアンサンブルに取り組む。現在、弦楽四重奏を中心とした室内楽、バロック音楽の分野で活躍中。「海のように深く、鳥のように軽やかに」を座右の銘とし、100分の1秒の間合いを読むことに賭ける。『古典四重奏団』第1ヴァイオリン奏者。『音楽三昧』メンバー。


# PIAZZA ARTE

芸術の広場

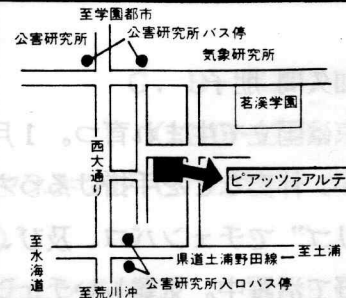
貸しスタジオ(バンド練習用)  
貸しホール(30畳)有り  
ご利用下さい

ピアッツァアルテ音楽教室生徒募集 尺八科 琴科  
ピアノ科 声楽科 リコーダー科 フルート科  
指導 専任講師 堀部一寿 他講師陣  
出張指導もいたします

お問い合わせ

ピアッツァアルテ  Piazza Arte  
つくば市稲荷前26-9 ☎0298-52-3721

または東京事務所 ☎03-487-4331までお気軽にどうぞ



音楽をもっと身近に  
と思っている方はぜひ当教室へ

**Vergin, tutto amor**

Vergin, tutto amor  
o madre di bontade, o madre pia,  
ascolta, dolce Maria,  
la voce del peccator.

Il pianto suo ti muova,  
ti muovan suoi lamenti,  
suo duol, suoi tristi accenti  
oda il tuo pietoso cor.

**Lascia ch'io pianga**

Armida, dispietata colla forza d'abisso,  
rapimmi al caro Ciel di miei contenti,  
e qui con duolo eterno  
viva mi tiene in tormento d'inferno.  
Signor! Ah! per pietà lasciami piangere.

Lascia ch'io pianga la dura sorte  
e che sospiri la libertà.  
Il duol infranga queste ritorte  
de' miei martiri sol per pietà.

**O notte, o Dea del mistero**

O notte, o Dea del mistero,  
dolce compagna d'amor,  
o notte, è in te sola ch'io spero!  
deh scaccia del giorno il fulgor;

O speme, o crudel martiro.  
o istante di gaudio e timor,  
io temo, io tremo, e desiro,  
e d'amore sospira il mio cor,  
di speme e di timor.

**愛に満ちた処女よ**

愛に満ちた処女、  
ああ善意の母、敬虔な母、  
お聞きください、やさしいマリーア様、  
罪人の声を。

罪人の涙が貴女を動かし、  
その嘆きが貴女を動かし、  
憐れみ深い貴女の心が  
その悩み、その悲しい言葉を聞かれんことを。

**私を泣かせてください**

奈落の力をもった情知らずのアルミーダは  
懐しい喜びの天上から私を奪い去り、  
ここで、永遠の苦しきをもった  
地獄の責め苦の中に私を生きたまま閉じ籠めている。  
主よ、ああ、どうか私を泣かせてください。

苛酷な運命に涙し、  
自由に憧れることをお許しください。  
私の苦しみに対する憐れみだけによって  
苦悩がこの鎖を打ち壊してくれますように。

**ああ夜よ、神秘の女神よ**

ああ神秘の女神、  
愛の優しい友である夜よ、  
ああ夜よ、私はお前だけに希望を繋ぐ。  
急いで昼の光りを追い払っておくれ。

ああ希望よ、むごい苦しきよ、  
束の間の喜びと、不安よ。  
私は恐れ、震え、求め、  
私の心は、愛と希望と怖れとで  
溜め息をつく。

Nel cor più non mi sento もはや私の心には感じない(うつろの心)

Nel cor più non mi sento  
brillar la gioventù;  
cagion del mio tormento,  
amor, sei colpa tu.

Mi pizzichi, mi stuzzichi,  
mi pungichi, mi mastichi,  
che cosa è questo, ahimè?

Pietà, pietà, pietà!  
amore è un certo che  
che disperar mi fa!

もはや私の心には  
青春の輝きを感じられない。  
私の苦しみの源、  
愛よ、お前のせいだ。

お前は私を<sup>つか</sup>り突っつき  
突き刺し噛み砕く。  
これはいったい何だろう、ああ。  
憐れんでおくれ、憐れんでおくれ。  
愛とは私を絶望させる  
何ものかだ。

Piacer d'amor 愛の喜びは

Piacer d'amor più che un di sol non dura;  
martir d'amor tutta la vita dura.

Tutto scordai per lei, per Silvia infida;  
ella or mi scorda e ad altro amor s'affida.

“Finché tranquillo scorrerà il ruscel  
là verso il mar che cinge la pianura  
io t'amerò.” mi disse l'infedel.

Scorre il rio ancor—ma cangiò in lei l'amor.

愛の喜びは一日しか続かないのに  
愛の苦しみは一生継続く。

私はあの不実なシルヴィアのためにすべてを忘れたのに、  
彼女は今私を忘れ、ほかの愛に身を委ねている。

〈平野を取り巻く海に向かって  
小川が静かに流れているうちは、  
私は貴方を愛しています〉と不実な女は言った。  
小川は今も流れているが、彼女の愛は変わってしまった。

Caro mio ben いとしい女よ

Caro mio ben,  
credimi almen,  
senza di te  
languisce il cor.

Il tuo fedel  
sospira ognor.  
Cessa crudel  
tanto rigor!

いとしい女よ、  
せめて私を信じてほしい。  
貴女がいないと  
心が寝れる。

貴女に忠実な男は  
いつも溜め息をついている。  
やめておくれ、むごい女よ、  
そんなつれなさを。